巻頭特集 愛知県緑警察署

フリモARで表紙をスキャン!
緑警察署からの熱いメッセージが流れます!

伝統あるこの街を守る! 緑警察署のしごと

事件・事故が発生しないように、警察官は暑い日も寒い日も、雨の日も、私たちの街を巡回しています。犯罪や事故から身を守るために私たちが注意すべき点を緑警察署に聞きました。ちょっとした心がけで、事件・事故は防ぐことができます。「はっ!」としない、「ひやっ!」のない、安心で安全な毎日を過ごすため、一人ひとりの意識を高めていきましょう。

これ以上増やさない! 緑区から事件・事故をなくす

愛知県は交通事故死者数が15年連続で全国ワースト。昨年は200人の方が尊い命を交通事故でなくしています。また、住宅を対象とした侵入盗の発生件数も11年連続で全国ワースト。交通事故死者数、侵入盗件数とも減少傾向にありますが、全国ワーストは非常に不名誉なことです。

緑区内では、今年、交通死亡事故が3件発生し3名が亡くなっています(8月7日現在)。住宅を対象とした侵入盗が1月から6月までに42件発生。死亡事故は昨年の同時期に比べ1件増。住宅を対象とした侵入盗は同時期より減少しているものの、残念ながら名古屋市では上位です。

名古屋市で最も世帯数・人口が多い緑区(7月1日現在)。伝統的な街並みや産業が残る、歴史ある地元がさらに安心・安全な場所になるよう、24時間、見守っているのが愛知県緑警察署です。青山にある本署と桃山・徳重・徳重駅前・平手・東陵・有松・桶狭間・大高・南大高・鳴海・鳴子・滝ノ水の12カ所の交番で構成されています。

本署では、警務課、会計課、生活安全課、地域課、刑事課、交通課、警備課が活動しています。

日中の訓練では、逮捕術などを磨きます。真夏日でも、道着を身に付け実践的な稽古を繰り返しています

交通課 交通事故の減少を目指して

今年、緑区内では交通死亡事故が3件発生(8月7日現在)し、バイク乗車の3名が亡くなっています。バイクや自転車を運転する人が交差点で自動車と衝突する交通事故により、多くの人がケガをしています。

バイク乗車時はヘルメットはもちろんのこと、二輪車用プロテクターやエアバッグジャケットも装着して、交通事故に遭うことがないよう安全運転を心がけましょう。自転車乗車時の事故は、頸部の負傷が多いのでヘルメットの装着が有効です。

交通課では、交通事故防止等のため、事故実態を分析した指導取締りや交通規制などを行っています。

緑区では横断歩道横断時には必ず手を挙げる「ハンドアップ運動」を推進して、人優先の交通行動の定着化を進めています

交通課
杉澤佑介巡査部長

警務課 丁寧かつ迅速な対応で区民の不安を払拭

緑警察署にかかった電話は、すべて警務課につながります。そこで内容を聞き、素早く担当課に取次ぎをしています。各種手続についての質問のほか「詐欺ではないか」「人間関係に悩んでいる」など、相談ごとも多いため、じっくりと相手の緊張をほぐしながら丁寧に話を聞くことも多いといいます。また、素早く的確な対応を可能にするためにも、他課との情報共有と連携は重要。常に協力して、区民の安心な暮らしを支えています。

電話だけでなく、警察署に足を運ぶ人は何か不安や問題を抱えている方が多いです。相手の立場に立った、笑顔とやさしさを忘れない応対を心がけています

警務課
鈴木あいみ主任(右)

生活安全課 地域住民の協力を得ながら防犯に強い街をつくる

主に防犯対策を担当する生活安全課生活安全係。犯罪情勢を分析し、対策やキャンペーンなどを企画します。緑区の犯罪で多いのは、侵入盗。一般民家やアパート、事務所を狙った侵入盗が多発しています。他に振り込め詐欺、架空請求詐欺が多発。被害の未然防止に努めています。窓ガラスを割って侵入される被害が圧倒的に多いため、強度を高めるため防犯フィルムを使ったり、防犯性が高いCPマークのついたグッズを使うように呼びかけています。

防犯対策の一環として防犯講話をしたり地域や企業と連携した防犯キャンペーンを実施しています。犯罪は日々、変化していくため前日の発生状況を確認して、対策を検討。金融機関からの高額出金への出向に対応したり、行方不明届の受理や手配など、広く扱います。

防犯活動をして地域のみなさんから感謝の言葉をいただいたり、行方不明だった方が無事に発見されたときなど、仕事のやりがいを感じています

生活安全課
北浦史恵警部補

生活安全課から! こんなことに気をつけて!

- ☑ CPマークのあるガラス、ドア、鍵等を使用
- ☑ 窓には補助錠をつける
- ☑ 自宅は周囲からの見通しをよくし、足場となるものを置かない、センサーライトで建物の周りを明るくするなど工夫する
- ☑ 警報器装置や機械警備を導入する
- ☑ 事務所には現金を保管しない
- ☑ 「今日じゅうに多額の現金が必要」という電話があったら家族や警察に相談。本人にすぐ確認する
- ☑ ハガキやメールで架空の料金を請求し、訴訟や財産差押等と不安感をあおって現金を送らせる詐欺には絶対に応じない

会計課 1カ月に約2000件 区内で発生する「落とし物」

緑警察署に届けられる落とし物は、1カ月で約2000件。主なものは現金、財布、鍵や携帯電話です。落ちていた場所は路上のほか、スーパーなどの店舗内での忘れ物が多くなっています。「年々、落とし物が大変多くなっていますので、みなさん十分注意してください」と森川さん。

また、会計課では、施設の保全管理や警察がさまざまな活動をするのに必要な予算も執行しています。

財布や携帯電話などの落とし物のほか、逃げ出したペットが保護されてくることもあります。昨年はオオトカゲが届けられて、びっくりしました

会計課
森川愛未さん

人の役に立ちたいと警察官を目指しました。災害の現場で警察官も活躍できます。「警察官になりたい!」と思う子どもが増えてくれると、うれしいです

地域課
大脇歩巡査長

地域課 区民からの通報でいち早く現場に駆け付ける

交番で活動したり、パトカーでパトロールをする地域課。通報を受けると、すぐに現場へ向かいます。地元の祭りやイベントがあれば見回りに出るなど、地域の身近な存在として活動しています。事故、事件、痴漢や酔っ払いなど、通報はさまざまですが、「交通事故の通報で現場出向することが多いです。歩行者の方も注意してください」「女性の一人歩きには、十分注意してください。特に暗い夜道は避けてください」「不審・不安に感じたときは110番通報をしてください」など、生活する上で注意してほしいと声をかけています。

刑事課 指紋や足跡など微量の証拠から犯罪を突き詰めていく

犯罪捜査を担当する刑事課。窃盗や殺人、強盗、誘拐など、犯罪の解決に取り組みます。鑑識係は、現場で指紋や足跡、DNAなどを採取し、物的証拠から犯人逮捕につなげます。警察犬と行動をともにすることもあります。「緑区は侵入盗が多い地域。侵入盗の現場に行くと、『ガラス割りも多いですが、無施錠だった』ということがあります。必ず施錠を」と言葉を強めます。

被害者から聞き取りをする際には、「被害者の立場に立ち、心情を察しながら捜査する」と、心がけています。

長年の夢であった鑑識係につくことができました。今の捜査が具体的にどんな役に立てるか、常に考えながら仕事をしています

刑事課
石川美優巡査

文／遠藤千明　写真／都築理絵　デザイン／HANZO(GOZEN4JI ART WORKS)